

# 青森県内の地形地域区分について

水野 裕

## <はじめに>

青森県内の地形に関する報告は、ここ数年かなり多くなってきている。しかし、これらはいずれも小範囲の地形、またはある特定の地形に限ったものであり、県全体からみたマクロな地形に関する報告はない。

筆者はこのたび青森県内の五万分の一地形図43図幅をベースに、起伏量および傾斜を計測し、これに現地調査の結果を加えて地形地域区分を行なったのでここに一試案として報告する。

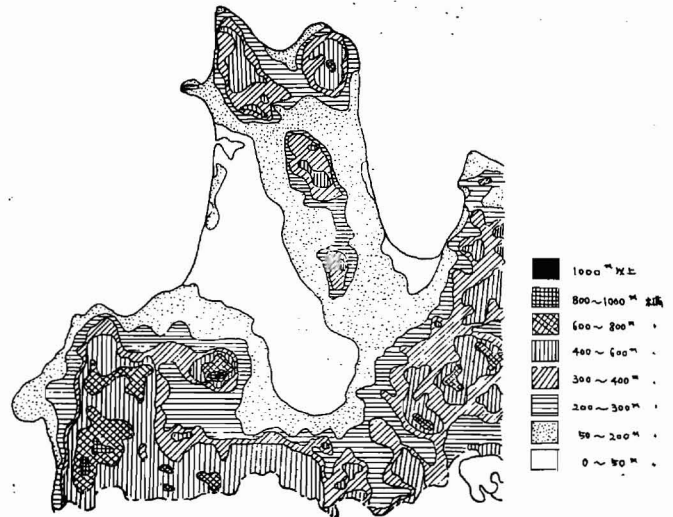
## <計測方法>

起伏量および傾斜の計測は次のように行なった。すなわち、調査基図としては国土地理院発行の五万分の一地形図を使い、これの各辺を10等分して得る各方眼内の最高点と最低点との標高差をもって起伏量とした。また、傾斜は上記方眼を縦横各2等分し、この結果できた各方眼の中において地形傾斜の特性をもっともよく表現する地点を測点とし、この測点をはさむ二つの等高線間の距離とその高度差から傾斜を測定した。

このうち、起伏量については0～50m未満・50～100m未満・100～150m未満・150～200m未満・200～300m未満・300～400m未満・400～600m未満・600～800m未満・800～1000m未満・1000m以上の10段階に分けた

(才1図)が、煩雑なのでこれをまとめ、600m以上を大起伏山地(火山地)・400～600mを中起伏山地(火山地)・200～400mを小起伏山地(火山地)・100～200mを大起伏丘陵地とした。

なお、参考までに県内の起伏量別および傾斜別の面積をあげておく(才1表・才2表)



才1図 起伏量図(津軽地方)

才1表

起伏量別面積

起伏量	面積 (km)	%
0~50m未満	1669.28	17.36
50~100m	1227.48	12.77
100~150m	1156.79	12.03
150~200m	886.46	9.22
200~300m	1557.03	16.21
300~400m	1520.73	15.82
400~600m	1323.95	13.77
600~800m	235.94	2.45
800~1000m	31.52	0.33
1000m以上	3.82	0.04
計	9613.00km	100%

才2表

傾斜別面積

傾斜	面積 (km)	%
0~3°未満	2349.42	24.44
3~8°	1863.66	19.39
8~15°	2811.25	29.24
15~20°	1423.30	14.81
20~30°	1040.23	10.82
30~40°	123.23	1.28
40°以上	1.91	0.02
計	9613.00km	100%

<地形地域区分>

地形により、土地の自然的性格がまとまりのある特性と変化を示しているのので、地域を山地および火山地 (A)、丘陵地および台地 (B)、低地 (C) と才1次分類を行ない、才2次分類として山地 (火山地) および丘陵地では大起伏・中起伏・小起伏に、台地 (段丘) では砂礫台地・ローム台地に、また低地では扇状地性低地・三角州性低地・自然堤防と砂州、に分けた。また、才3次分類として台地 (段丘) は上・中・下の3面に細分した。

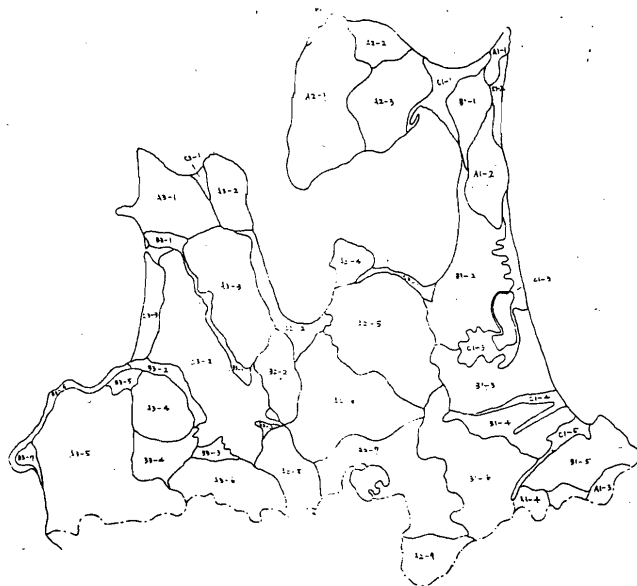
このように起伏量と傾斜をベースに、才1次から才3次までの地形分類を行なった結果、青森県内を44の地形地域に区分することができた。

(才2図・才3表)

以下、この区分のもとになった地形別に、その特徴や分布をのべる。

大起伏山地:

起伏量600m以上の山地で、花崗岩および才三紀層からなる県西部の白神山地に広く分布するほか、奥羽脊梁山地の八幡岳、津軽半島平館山地の丸屋形山・鳴川岳周辺に小範囲にみられる。このうち、白神山地



才2図 青森県内の地形地域区分図

は県内でもっとも壮年期的様相を呈している。

中起伏山地：

起伏量400～600mの山地で、県西部では白神山地・大鰐山地・中山山地・平館山地、中部では下北山地・東岳・八幡岳山地などに広く分布し、東部では名久井・階上・吹越・桑畑山の各山地に点在している。

小起伏山地：

起伏量200～400mの山地で、中起伏山地の周辺部に分布する。白神・中山・梵珠・東岳・八幡岳・下北・吹越の各山地に広くみられる。

大起伏火山地：

起伏量600m以上で、主として熔岩そのものからなる火山地である。岩木山、北八甲田火山群の大岳・高田大岳・田茂瀧岳、南八甲田火山群の櫛ヶ峯・横岳などに主として分布している。

中起伏火山地：

起伏量400～600mで、主として熔岩からなる火山地である。十和田・八甲田・岩木山・恐山・燧岳の各火山地に分布している。

小起伏火山地：

起伏量200～400mで、各種の火山碎屑物からなる火山地で、十和田・八甲田両火山地の大部分がこれに含まれる。このほか、恐山火山地では恐山の南西および北東、燧岳火山地では燧岳の南方に広く分布し、岩木火山地では北西部にやや広くみられる。

火山山麓地：

起伏量200m以下の火山周辺地で、火山性泥流堆積物やその他の火山碎屑物からなっている。

才3表 青森県内の地形地域区分

A 1 東部山地	A 1-1	桑畑山地
	A 1-2	吹越山地
	A 1-3	階上山地
	A 1-4	名久井山地
A 2 中央山地	A 2-1	下北山地
	A 2-2	燧岳火山地
	A 2-3	恐山火山地
	A 2-4	夏泊山地
	A 2-5	東岳・八幡岳山地
	A 2-6	八甲田火山地
	A 2-7	十和田火山地
	A 2-8	矢捨山地
	A 2-9	田子山地
A 3 西部山地	A 3-1	中山山地
	A 3-2	平館山地
	A 3-3	梵珠山地
	A 3-4	岩木山火山地
	A 3-5	白神山地
	A 3-6	大鰐山地
B 1 東部丘陵・台地	B 1-1	砂子又丘陵
	B 1-2	六ヶ所台地
	B 1-3	三本木・三沢台地
	B 1-4	五戸台地
	B 1-5	八戸台地
	B 1-6	三戸丘陵
B 2 中央丘陵・台地	B 2-1	大間台地
	B 2-2	大沢迦丘陵
B 3 西部丘陵・台地	B 3-1	金木台地
	B 3-2	山田野台地
	B 3-3	弘前台地
	B 3-4	目屋丘陵
	B 3-5	鱒ヶ沢丘陵
	B 3-6	深浦台地
	B 3-7	へなし丘陵
C 1 東部低地	C 1-1	むつ低地
	C 1-2	猿ヶ森低地
	C 1-3	小川原低地
	C 1-4	奥入瀬・五戸川低地
	C 1-5	馬淵川低地
C 2 中央低地	C 2-1	野辺地・小湊低地
	C 2-2	青森平野
C 3 西部低地	C 3-1	今別低地
	C 3-2	津軽平野
	C 3-3	屏風山砂丘地

る。岩木火山の周辺、特に北麓に広く分布するほか、恐山の北東麓および南麓、八甲田火山の北麓にも広くみられる。

**大起伏丘陵地：**

起伏量100～200mの非火山性の丘陵地で、津軽半島部では中山・平館・梵珠の各山地の周辺、およびこれにつづく南方の大釈迦丘陵に広く分布する。下北半島ではむつ市東方の砂子又丘陵や、この南方につづく吹越山地の西麓にみられる。

**小起伏丘陵地：**

起伏量100m以下の非火山性の丘陵地で、大釈迦丘陵の北部にもっとも広く分布している。このほかは弘前市南方および北西方に比較的まとまってみられるほか、津軽平野北東縁に断続的に分布しているにすぎず、全体的には面積が小さい。

**火山性丘陵地：**

起伏量200m以下で、十和田・八甲田両火山起源の軽石などの火山噴出物からなる丘陵地である。県南東部の三戸郡を中心に広く分布し、十和田・八甲田両火山地と八戸・五戸・三本木・三沢の各ローム台地との間に位置している。

**砂礫台地（上位）：**

洪積統の砂・礫・粘土などの構成物からなる台地・段丘で、火山灰により被覆されている場合もあるが、台地・段丘の構成層にくらべて非常にうすい。上位面は標高70～160mの面で、主として西海岸沿いの深浦台地に断続的に分布しており、中・下位の面にくらべて開析が進み、起伏がある。

**砂礫台地（中位）：**

標高30～60mの面で、下北半島の大間台地、西海岸沿いの深浦台地、津軽平野周辺の山田野台地・弘前台地・金木台地の大部分がこれにあたる。大部分は海岸段丘面であるが、弘前台地のみは開析扇状地の性格をもち、弘前盆地中央に向かって緩傾斜している。

**砂礫台地（下位）：**

標高30m以下の台地面で、青森平野の油川および蓬田付近に広く分布するほか、下北半島大間崎付近、津軽平野北東部の金木町周辺および屏風山砂丘地の海岸寄りにみられる。

**ローム台地（上位）：**

県東部のすべての台地はローム質の火山灰によって厚くおおわれている。このローム質の火山灰は十和田・八甲田火山起源のもので、厚さは新旧あわせると約12mにも達する場合がある。上位面は標高70～120mの面で、中・下位の面にくらべて起伏があり、平坦面の連続性は悪い。下北半島頸部の六ヶ所台地・県南東部の八戸台地や五戸台地に広く分布している。

**ローム台地（中位）：**

標高20～70m台地面で、上位面にくらべ傾斜が少なく、平坦面の連続性がよい。小川原湖周辺の三本木・三沢台地および六ヶ所台地にもっとも広く分布するほか、八戸台地北部・五戸台地東部・むつ市周辺部にもみられる。

ローム台地（下位）：

標高20m以下の台地面で、中位面の前方に修飾的に付着している扇状地性の面である。分布はかなりせまく、八戸台地北端・三本木・三沢台地北東端および小川原・猿ヶ森両低地の縁辺部にみられるにすぎない。

扇状地性低地：

沖積低地のうち、扇状地と砂礫質の氾濫原が含まれる。面積的には津軽平野南部の弘前盆地がもっとも広く、青森平野がこれにつづく。奥入瀬・五戸川低地や馬淵川低地の大部分もこれに含まれる。

三角州性低地：

標高約7m以下の沖積低地で、シルト・粘土からなる氾濫原・堤間湿地・三角州が含まれる。概して排水不良の低湿地である。五所川原以北の津軽平野北部が広大な面積を占めるほかは、むつ低地・小川原低地・それに各中小河川の河口付近にせまく分布するにすぎない。

自然堤防・砂州：

自然堤防は津軽平野の岩木川沿いに広く分布し、特に藤崎町から板柳町にかけては幅広くみられる。津軽平野以外では青森平野南部に狭少なながら存在する。

砂州は大湊湾岸のむつ低地前面や芦崎、むつ湾岸の吹越付近、太平洋岸の猿ヶ森・小川原両低地の前面、日本海岸の屏風山砂丘地北端に分布する。

被覆砂丘地：

植生におおわれた砂丘で、日本海側の広大な屏風山砂丘地のほとんどがこれにあたる。この砂丘地は標高20～40mの台地状を呈し、この上に大規模な縦列砂丘や西方に口を開いたU字型砂丘が数多く存在する。

<以上>